

令和6年度 整備技術の高度化に係る困りごと調査結果

令和6年度調査の概要

- Webアンケートを用いて調査を実施したところ、116件の回答を得た
- 回答者はディーラー系以外が9割を占め、業態は点検整備：車体整備 = 3：2だった

調査の概要

件名	「自動車整備技術の高度化に関する困りごとの情報提供フォーム」
回答期間	約3か月間(9/20(金)～12/16(月))
回答方法	Webアンケート方式
調査対象	自動車整備振興会会員又は自動車車体整備協同組合に所属する 指定/認証整備事業者 等
調査内容	・以下に該当する現在の困りごと 1. 整備情報に関するもの 2. 専用スキャンツールに関するもの 3. 汎用スキャンツールに関するもの ・今後予想される困りごと
回答件数	116件

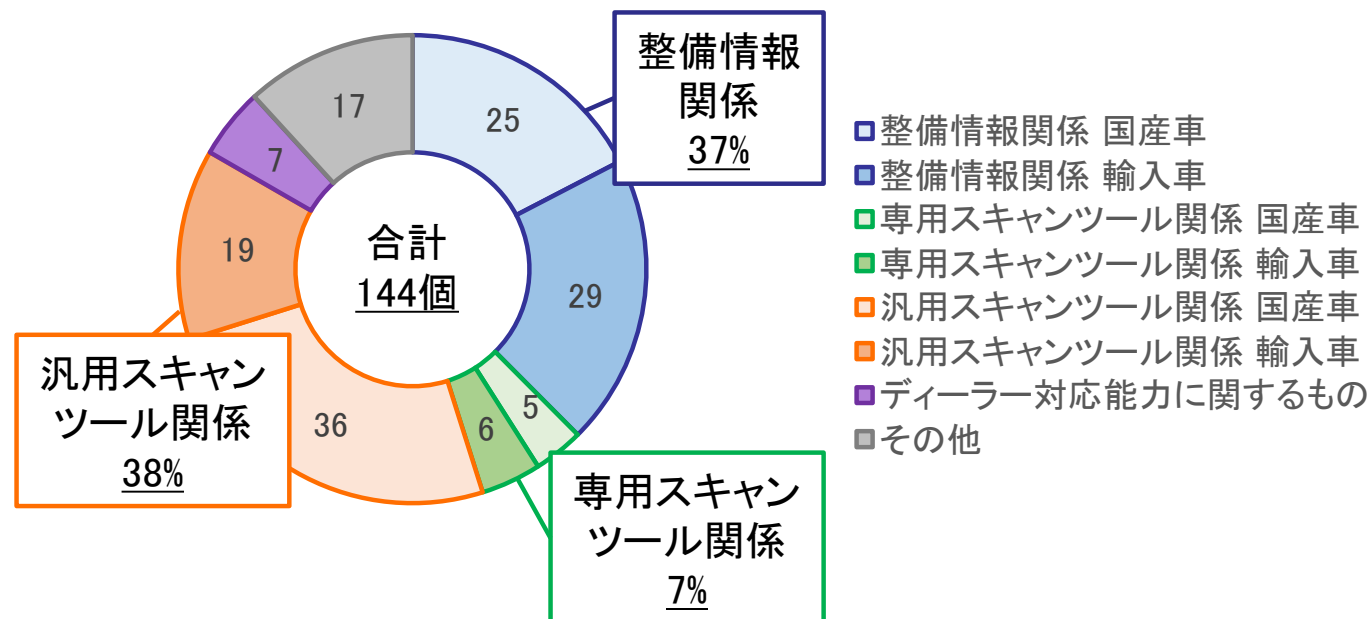
回答者の内訳



令和6年度調査の結果(現在の困りごと)

- 収集した現在の困りごとは144個
- 汎用スキャンツールに関するもの、整備情報に関するものが共に4割と多数を占めた
- また、ディーラーの対応能力に関する困りごとも散見された

調査結果

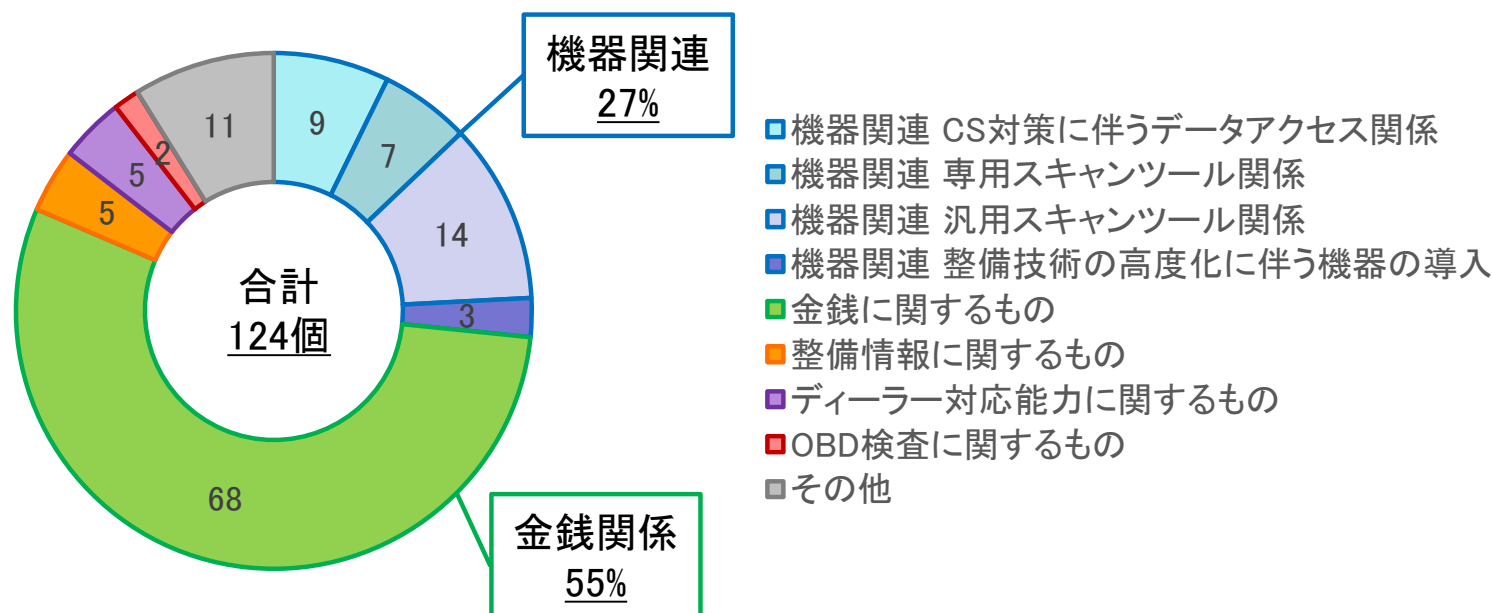


- 「整備情報」関係については、FAINESに登録されていない等により入手できないといった困りごとが4分の3を占めた。主に、輸入車や大型車に関する詳細な意見が寄せられた。
- 「汎用スキャンツール」関係については、整備要領書に記載された整備ができない、DTCを消去できないといった困りごとが8割を占めた。国産車・輸入車を問わず多くの詳細な意見が寄せられた。
- このほか、ディーラーへ外注する際の対応能力(入庫期間が長い、なかなか対応してもらえない等)に関する意見も散見された。

令和6年度調査の結果(今後予想される困りごと)

- 収集した今後予想される困りごとは124個
- スキャンツールの更新費用や買換え費用といった、金銭に関する困りごとが半数を占めた
- その他、高度化する自動車の点検整備に使用する機器に関する意見も多かった

調査結果



- スキャンツールの更新費用、スキャンツールの買換え費用といった、金銭関係の困りごとが6割。
- 自動車メーカーのCS対策に伴う機器のデータアクセス関係、専用・汎用スキャンツール関係、その他整備技術の高度化に伴う機器(例えば、車種に合わせたエーミング機材)の導入といった、高度化する自動車の点検整備に使用するための機器に関する困りごとも多く見られた。

令和6年度調査結果を受けた対応

- 整備情報を入手しづらい車種がある(輸入車、大型車)
 - 整備情報の提供を義務付ける道路運送車両法第57条の2の履行状況の確認
必要に応じて、提供方法の見直しの検討
- 汎用スキャンツールで、整備要領書に記載された整備ができない
 - 汎用スキャンツールの抜本的機能強化(資料4関係)
- ディーラーの外注受入能力の不足
 - ディーラーの現場負荷の軽減、「ディーラーでなければならない整備」の削減
- スキャンツールの更新費用など金銭関係の困りごと
 - スキャンツール補助金
- 高度化する自動車の点検整備用機器に関する困りごと
 - 機器の標準化(汎用スキャンツールを含む)